

受講者から見た教員免許状更新講習

宇佐美 英 郎 (麴町学園女子中学・高等学校)

はじめに

平成19年6月の改正教員免許法の成立により、平成21年4月から教員免許更新制が導入されることとなった。文部科学省のホームページには目的として「その時々で教員としての必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能を身に付けることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊厳と信頼を得ることを目指すものです。※不適格教員の排除を目的としたものではありません」とある。

教員免許更新制の議論は、昭和58年自民党文教制度調査会による「教員の養成、免許等に関する提言」が始まりである。同提言において、教員免許状に有効期限を付し更新研修を義務付けるための検討が求められている。教員免許更新制が決定するまでの大まかな流れを振り返ると、平成12年頃からの学力低下論争や教員の質の問題をマスメディアを通して報道が活発化したことを受け、安倍政権時に教育再生会議が教員免許更新制を提言、平成19年6月の教育職員免許法の改正によって平成21年4月からの導入が決定された。

予備免許講習が始まり、開設主体として大学や教育委員会、日本私学研究所をはじめとする様々な教育団体、施設が講習を告知し募集を開始した。希望者が殺到する団体もあれば、定員に満たない団体もあった。私も日本私学教育研究所に申し込みをしたが抽選ではずれてしまった。講習期間も同時期にかたまっていたこともあり、「次は大丈夫だろうか」という漠然とした不安があった。同年の友人達も抽選にあたらず、「免許が更新出来なかったらどうする」という話も出てきていた。日々の業務は勿論、長期休暇中もクラブの指導や試合、学校での講習などでまとまった時間が取れないこともあって選べる講習も限られてしまう私のような教員も多いはずである。先が分からない不安ばかりがあった。平成21年4月になると不安もすぐに解消された。講習の数、募集人数や時期も選べオンデマンドも含めた従来の講習とは異なる形式のものが主にインターネットを通じて情報を得ることが出来た。その中でスケジュールに合うものを選び、受講することが出来た。

平成21年8月衆議院選後、民主党が政権を取るや否や免許更新制は廃止の方向が打ち出された。そのため当初の目的としていた受講者への講習の効果だけでなく、講習を受けた上での講習に変わるものについての調査検証も加えた。ただ免許更新制中止報道の影響から、調査を予定していた講習会も次々と中止が決まり、調査数としては当初考えていた数の4分の1、調査対象も全国から東京の私学となってしまったことをお断りしておく。このような状況で快く調査にご協力いただいた各校には感謝申し上げたい。

1 教員免許状更新講習についてのアンケート

1. 1 アンケート調査について

調査主体は筆者である。調査は平成21年11月～翌年1月に実施した。冬休みに講習を受ける方もあるのではないかと考えたからだ。一般的には調査期間を平成21年11月時点など、ある期間に絞り込むものだが、前述の理由から調査範囲を狭めざるを得なかったためなるべく多くの、受講された方のデータを集めるた

めである。調査目的は、受講前の講習に対する期待と講習後の結果を比較することで『この講習に「すぐに役立つもの、これからを見通せる視点」を求めている。』という仮説の検証を行うことである。また、教員免許更新講習を受けるまでのプロセスや試験をともなうことについての是非と教員免許更新講習に代わるものとしてのお考えをお聞きすることで、この制度についての総括的なものが出来ればよいと考えて加えた。調査対象は、事前にアンケートの主旨や目的をご理解いただいた都内私立学校に依頼し、教員免許更新の対象者数をお聞きした上で50名の方々に依頼した。その結果、35名の方から回答をいただいた(回答率70%)

1. 2 アンケート結果

全ての項目について全体の35名を100%として計算、表示している。また、自由表記については要点をまとめ、なるべく簡潔に表記した。

ご自身についてお聞かせ下さい。

1. 性別 男性 (54%) 女性 (46%)
2. 該当する年代を教えてください。
 - ① 20代 (0%) ② 30代 (31%) ③ 40代 (37%) ④ 50代 (31%)
3. 担当教科を教えてください。
 - ① 国語 (14%) ② 社会 (17%) ③ 数学 (23%) ④ 理科 (6%) ⑤ 英語 (14%)
 - ⑥ 体育 (6%) ⑦ 芸術 (9%) ⑧ 家庭科 (6%) ⑨ 情報 (3%) ⑩ その他 (3%)
4. ご自信のお立場を教えてください。
 - ① 専任教諭 (77%) ② 講師 (23%) ③ その他 (0%)

必修領域「教職についての省察ならびに子供の変化、教育政策の動向及び学校の内外における連携協力についての理解に関する事項」(12時間)についてお聞きします。

5. 講習は受けられましたか。 ① 受講済み (88%) ② 受講していない (12%)
6. 受講されていない理由を教えてください
 - ① 申し込んだが受けることが出来なかった (3%)
 - ② 制度が終わってしまうことを知ったから (0%)
 - ③ 忘れていた (0%) ④ 免許更新制度そのものを知らなかった (0%)
 - ⑤ 講習の必要性を感じなかった (0%)
 - ⑥ その他 (9%)

その他の理由としては、来年度受講予定、免除対象、受講予定だったが仕事の都合で受けられなくなった、があった。
7. どこで受講されましたか。
 - ① 出身大学 (18%) ② 出身以外の大学 (48%) ③ 日本私学教育研究所主催 (34%)
 - ④ その他 (0%)

必修領域では日本私学研究所主催のものが募集人数も多かった。どこでなければいけない、という必要性があまり無かったため、受講しやすいところを選んだのではないかと考えられる。
8. 講習会の情報はどのように得られましたか。
 - ① 勤務校から (37%) ② インターネット検索で (37%)
 - ③ 大学からの案内 (8%) ④ その他 (6%)

勤務校からの情報は、文部科学省よりの資料などであると考えられる。ホームページを検索して申し込む割合が30代、40代の80%を超えていた。
9. 何回目の申し込みで受講することが出来ましたか。
 - ① 1回目 (83%) ② 2回目 (6%) ③ 3回目 (0%) ④ 4回目以上 (0%)

10. いつ受講されましたか。

- ①平成20年6月～8月（但しオンデマンド）（3%）
 ②平成20年7月～9月（3%） ③平成20年10月～12月（11%）
 ④平成21年1月～3月（3%） ⑤平成21年4月～6月（0%）
 ⑥平成21年7月～9月（27%） ⑦平成21年10月～12月（9%）

やはりほとんどが夏期、冬期の長期休暇中に受講している。

11. 受講された理由をお聞かせ下さい(複数回答可能です)。

- ①免許の失効を防ぐため（83%） ②勤務校からの指示（11%）
 ③教員としての資質を高めるため（21%） ④講習自体に興味をもったから（18%）
 ⑤その他（0%）

必修領域については、①免許の失効を防ぐためのみの回答がほとんどであり、③、④を回答した人のほぼ全員が①と重複回答している。また③、④ともに回答している割合は6%

12. 受講する前に、講習に対して何か期待していたことはありましたか（複数回答可能です）。

- ①最新の教育動向についての情報、知識（69%）
 ②学習指導要領についての情報、知識（37%）
 ③生徒理解につながる情報、知識（31%）
 ④生徒指導につながる情報、知識（37%）
 ⑤授業に役立つ情報、知識（34%）
 ⑥その他（0%）

一人平均3.3カ所チェックをつけていることから、講習に対する期待の高さが表れている。21%が①～⑤すべてにチェックをつけた。

13. 受講費についてお聞かせ下さい。

- ①自己負担（63%） ②勤務校負担（14%） ③一部自己負担（11%）

14. 講習に参加されて何か教壇に立つ上で役立つことが得られましたか。

- ①大いに得られた（29%） ②何かしら得られた（46%）
 ③あまり得られなかった（14%） ④全く得られなかった（0%）

12.での期待の高さに対して①と②を合わせて75%と十分答えられている。文部科学省の調査でも90%を超える満足度が報じられた。

15. 何が役に立つと感じられましたか。自由にお書き下さい。

- ・他校の教員との交流 ・教職の重要性の再発見 ・テストでの緊張感

「他校の教員との交流」という意見が多く、勤務校だけの人間関係から離れ、他校の状況を知ることが研修として有益であることを示している。集約してしまっただが、ほぼ全員が意見を書いており、参加した講習が有益であったことをここでも裏付けている。

16. 講習に参加されての感想をお聞かせ下さい。

- ①とても良かった（24%） ②良かった（24%）
 ③どちらかといえば良かった（30%） ④どちらとも言えない（5%）
 ⑤どちらかといえば良くなかった（3%） ⑥良くなかった（3%）
 ⑦とても良くなかった（3%）

14.と同様に①、②、③を合わせて74%とそのまま同調している。14.の①と16.の①はほぼ一致していることを考えれば、教壇で役立つことを講習に対して求めていると考えられる。また⑤と⑥を合わせて6%と否定的な割合は低かった。

17. 講習後の試験についてお聞きします。

- ①必要である（15%） ②どちらかといえば必要（27%）
 ③どちらかといえば必要ない（30%） ④必要ない（21%）

①と②で42%、②と③で51%とやや必要のないほうが多かった。枠外に「受講していない内容

について出題されていた」他「受講後すぐに試験であった、復習する時間もなかった」などと書かれた方もあった。

選択領域「教科指導・生徒指導その他教育の充実に関する事項」（選択18時間）についてお聞きします。

18. 講習は受けられましたか。

- ①18時間受講済み（69%） ②12時間受講済み（6%）
③6時間受講済み（0%） ④受講していない（18%）

必修領域に比べて選択自由度が高いが、多くは1箇所です3日間受講していると考えられる（23.と合わせて考えれば）。

19. 受講されていない理由を教えてください

- ①申し込んだが受けることが出来なかった（6%）
②制度が終わってしまうことを知ったから（0%）
③忘れていた（0%） ④免許更新制度そのものを知らなかった（0%）
⑤講習の必要性を感じなかった（0%） ⑥その他（12%）

その他の理由は、・免除対象者となった、・来年度があるから、・時期が合わなかった、であった。必修領域と年度をまたいで受講している方も多く、免除対象者となるケースもあったということか。

20. どこで受講されましたか（複数回答可能です）

- ①出身大学（21%） ②出身以外の大学（57%） ③日本私学教育研究所主催（18%）
④その他（0%）

必修領域と比べて選択領域受講者全体のなかで①と②の割合が高くなった。教科指導についての講習を選択した割合が高かったと推測される。

21. 講習会の情報はどのように得られましたか（複数回答可能です）

- ①勤務校から（34%） ②インターネット検索で（46%）
③大学からの案内（18%） ④その他（6%）

必修領域と同様であるが、大学からの案内の割合が増えた。20.と同様に教科指導についての講習を選択した割合が高くなったことを表している。

22. 何回目の申し込みで受講することが出来ましたか（複数回答可能です）

- ①1回目（72%） ②2回目（3%） ③3回目（0%） ④4回目以上（0%）

23. いつ受講されましたか（複数回答可能です）

- ①平成20年6月～8月（但しオンデマンド）（3%）
②平成20年7月～9月（40%） ③平成20年10月～12月（0%）
④平成21年1月～3月（0%） ⑤平成21年4月～6月（0%）
⑥平成21年7月～9月（57%） ⑦平成21年10月～12月（6%）

18.とあわせて考えれば夏期休暇期間に集中していることから3日間続けて受講するタイプを選んだ受講者がほとんどであることが推測される。

24. 受講された理由をお聞かせ下さい（複数回答可能です）。

- ①免許の失効を防ぐため（77%） ②勤務校からの指示（9%）
③教員としての資質を高めるため（27%） ④講習自体に興味をもったから（27%）
⑤その他（0%）

11.と比較すると、①の割合が減り、③と④の割合が高くなっている。次の25.とあわせて授業及び教科指導のために講習を選択していると言える。

25. 受講する前に、講習に対して何か期待していたことはありましたか（複数回答可能です）。

- ①最新の教育動向についての情報、知識（37%）

- ②学習指導要領についての情報、知識（14%）
- ③生徒理解につながる情報、知識（27%）
- ④生徒指導につながる情報、知識（32%）
- ⑤授業に役立つ情報、知識（49%）
- ⑥その他（6%）

12. と比較すると①にかわって⑤の割合が増加した。やはり自教科についての講習を選択しているあらわれである。その他の中にも教材研究についての希望もあった。

26. 受講費についてお聞かせ下さい。

- ①自己負担（54%）
- ②勤務校負担（14%）
- ③一部自己負担（9%）

27. 講習に参加されて何か教壇に立つ上で役立つことが得られましたか。

- ①大いに得られた（30%）
- ②何かしら得られた（34%）
- ③あまり得られなかった（14%）
- ④全く得られなかった（0%）

①と②をあわせて64%、これは受講者のみの割合から考えると14.での割合と同様である。

28. 何が役に立つと感じられましたか。自由にお書き下さい。

- ・ 他校の教員との交流
- ・ 教職の重要性の再発見
- ・ テストでの緊張感
- ・ 最新の教育動向についての情報、知識
- ・ 生徒指導に役立つ情報、知識
- ・ 授業に役立つ情報、知識

かなり集約してしまっただが15.で取り上げた「他校の教員との交流」の割合は激減し、代わって「授業に役立つ情報、知識」に含まれる意見が多くを占めた。

29. 講習に参加されての感想をお聞かせ下さい。

- ①とても良かった（30%）
- ②良かった（25%）
- ③どちらかといえば良かった（15%）
- ④どちらとも言えない（5%）
- ⑤どちらかといえば良くなかった（3%）
- ⑥良くなかった（3%）
- ⑦とても良くなかった（3%）

①、②、③をあわせて70%と、27.と同調している。16.と異なるのは①、②の割合が高くなったことだ。必修領域のようなやや消極的な満足感ではなく積極的な満足感を持った受講者が多かったことを表している。

30. 講習後の試験についてお聞きします。

- ①必要である（15%）
- ②どちらかといえば必要（24%）
- ③どちらかといえば必要ない（30%）
- ④必要ない（15%）

17.と比べて④が減った。②も微減少したが③と④の割合がやや高いことは同じであった。

31. 教員免許状更新講習は今年度限りとなる予定ですが、これに代わるものとして今後どのような流れがよいと考えますか、ご意見をお聞かせ下さい。

- ①以前と同じで、特に必要はない（27%）
- ②自分で選べる年数時間の講習受講（45%）
- ③地方自治体や私学協会による講習受講（11%）
- ④その他のご意見（6%）

その他のご意見6%は、この欄のみに書かれた方の割合である。①～③にチェックを入れた上で記述欄にも意見を書いた方も多く、36%あった。全て記述することは出来ないの、ここには表記しないが、ほとんどが①～③にチェックを入れた意見を具体化、または補足する内容となっており、自らのスキルアップを考えている教員が多いことを伺わせる。

2 アンケートの検証について

2. 1 検定について

この調査を始めるとき、統計的仮説を立て、例えば年代と受講満足度などの様々なクロス集計を行い、統計的な処理を行った上で検定を行う予定であった。アンケートの結果をまとめ始めた段階で紙面に載せられる量的な問題によりやく気づき、このような形での発表とさせていただいた。大まかな検定となってしまうが、『この講習に「すぐに役立つもの、これからを見通せる視点」を求めている。』という仮説の前半部分、「すぐに役立つもの」については確率こそ示せなかったが、正しかったと言えるのではないだろうか。後半部分については引き続き研究を進める予定である。

2. 2 検証とまとめ

この調査用紙が手元に戻ってきたとき、コメントの多さにまず驚かされた。31. で書いたように、本来ならチェックだけで済むところを具体化、補足するコメントが多かった。中には欄外に講習についての意見も書かれていた。その中で、各自が主体的に自信のスキルを高めるために研修を受けるべきである、という意見がいくつもあった。この講習がきっかけとなり、自主的な研修の気運が高まり、学校の枠をこえた教員自身の手による様々な形での自主研修が始まればそれをサポートする体制も自然と生まれてくるのではないか。教員が努力している姿は生徒にとっても良い影響である。長い目で見れば学校の活性化につながると思う。私個人にとっても今回の更新講習は良い機会となった。この機会を与えて下さった山路先生をはじめ日本私学教育研究所の先生方に感謝申し上げます。